

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 亀田中 学校 学級数 21

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

豊かな心と確かな学力を身につけた生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

校内研究主題のキーワードを「学力向上」として5年が経過したが、5年目となる昨年度は学力向上の取組を実施したのにもかかわらず、成果が芳しくなく、「学校評価」や「校内全体研究会」では、【家庭学習が習慣化していない】という指摘も多々見られた。新年度となり、メンバー構成が変化したことを契機に、研究部より、「学力向上」に向けて、これまでの取組を見直し、内容を精選したいという提案がされた。

2 取組の位置付け

研究部が中心となって「学力向上」のための新たな取組を進めている。

3 取組の方法

研究部からは〈学力向上のための手だてと指導のあり方に迫るために内容を精選して、全員が取り組める課題を設定したい〉という趣旨に基づき、次の二つの提案が行われた。

① エンカウターの紹介

学級や授業でも使えるエンカウターのワークショップを全体研修会の中で行い、学級や授業での取組の様子も合わせて紹介し、エンカウターの特色を具体的に示していた。

② 全教科でレポートを

全教師共通の実践として、「教科の授業の単元の中に、生徒がレポートを書く場面を設定する」という提案である。個人研究の課題であり、教科部会で取り上げ方を相談し、余裕があれば交流授業、公開授業を進める。11月の全体研修会における特設授業でも、レポートを取り入れた授業を公開してほしいという提案である。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

1 1月7日、第2回校内全体研究会があった。

特設授業として、1年生国語で、「相田みつをの作品を見て、鑑賞文を書こう」という実践が公開された。生徒それぞれが気に入った作品を選び、そのよさをカードに書き出す。記入したカードを黒板に貼り、共通する内容を持つものを生徒たちが見つけ出し、同一グループとして、カードを分類する。整理されたグループそれぞれが鑑賞の観点となることを確認し、自分が鑑賞文を書く際に、参考とさせるとともに、その並べ方を工夫することにより、鑑賞文の構成を考えさせる、という取り組みである。生徒自身の活動を通して、文章を書く際の材料や構成について意識を高めさせ、書くスキルを上達させる、よい実践であった。

その後の研究協議でも、職員を5～6名ずつの6グループに分け、

- ・生徒の動きについてよかった点・気になった点
- ・授業についてよかった点・気になった点
- ・今年度の課題「レポートを書く」で、よかった点・工夫した方がいい点

を、三色の付箋紙に書き分け、グループで交流・グループ別に分類して模造紙に貼り、全体発表する、という、1学期同様、エンカウンター的手法を生かした進め方を研究部が工夫してくれた。大変有意義な交流ができたと思う。

今年度のテーマ「レポートを書く」については、冬休みの課題として、教師全員が取り組みレポートを提出しており、2月に行われる第三回校内全体研究会で、その成果が交流されることになっている。

○ 教育課程検証の方法

- ・「学校評価」の評価項目を、評価委員会が、学校経営要項や分掌の業務分担に留意して再構成し、本年度の実践により即した学校評価を行うことができた。保護者へのアンケートも、より適切な内容となるよう考慮した上で行い、現在集計中である。